

外国語 小学校第5学年 Unit1 Hello, friends.

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

これは5年生になって英語に最初に触れる単元である。

4年生までの英語に親しむ内容から、英語を学び、身につけていく必要がある。

そこでまずアルファベットの読み書きを定着させるために、デジタル教科書にあるアルファベットの発音を繰り返し行った。

そして、アルファベットビンゴを行って楽しく学習をすることができた。

Unit 1 ではあいさつの方法や自分の好きなことやものを伝えることを目的としている。

まずデジタル教科書にある映像を見せながら、どのようなあいさつをしているのかを聴き取らせる。

それから、自分の好きなものや興味のあることなどの単語を、ワードゲームを通じて覚えていった。

児童と同じ教科書を画面に映すことで、児童も安心して学習に取り組み、理解も深めているように感じた。

外国語 小学校第5学年 Unit1 Hello, friends.

発音確認での活用

拡大縮小

書き込み

朗読音声再生

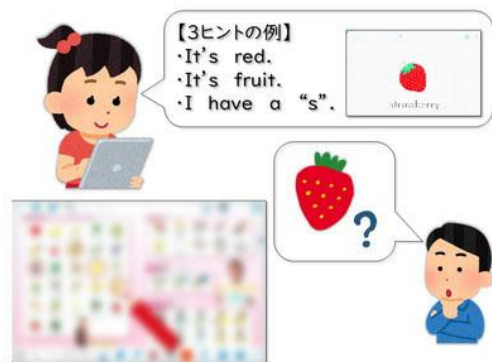
デジタル教科書の「Picture Dictionary」を使用して『3ヒントクイズ』を行う。

事前に単語の発音練習を全体で行い、次に個人で練習する。デジタル教科書で音声を再生しながら、繰り返し練習できる。

次にヒントづくり。自分が選んだ果物・野菜について簡単な3つのヒントを考える。

例えば「It's red.」「It's fruit.」「I have a "s".」等であり、それをもとにペアで3ヒントクイズを行う。

出題者は単語を拡大したのを見ながら出題、相手役はヒントをもとにそれが何かを当てる。正解したら、2人ともデジタル教科書上のイラストに○をつける。画像の拡大、書き込み（消去も）が簡単にできるのもデジタル教科書の良さである。



端末で行う3ヒントクイズの画面

外国語 小学校第5学年 Unit2 When is your birthday?

発音確認での活用

朗読音声再生

5年生児童にとっては、初めて教科としての外国語に触れる。

そのため、なるべく本物の発音に触れさせる必要がある。

A L Tと連携し、全体指導での発音練習はできるのだが、個別の反復練習をするとなると手が行き届かない部分が出てきてしまう。

そこで、電子版「Picture Book」を活用し、個別に反復練習をさせる。

リズム良く音が流れてくるので、児童も口ずさみながら聞くことができる。音が聞き取りにくい場合はA L TやH R Tに質問をし、確認をする形をとっている。スピーチ前にも個別に聞きながら、最終確認を取れるようにしている。



反復練習を行っている様子

外国語 小学校第5学年 Unit3 What do you want to study?

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

本単元で学んだ内容を活かして、「夢に近づく時間割」をスライドで作成し、クラスで紹介する学習活動を行った。

紹介文を作成するにあたり、デジタル教科書の例文の音声を聴いて参考にしながら紹介文を作成したり、スピーチの練習をしたりした。

同時に Picture Dictionary を使い、教科や職業の英単語の発音を確認することが容易にできたことも効果的であった。

タブレットの動画機能を使いながら一人で黙々と練習を繰り返す児童たちもいれば、友だち同士でアドバイスしあいながら練習する児童たちもいた。

タブレットを使用して繰り返し練習することで、自信をもってスピーチができる児童が増えて、自分自身で学ぶ意欲も高まった。



夢に近づく時間割を発表している児童

外国語 小学校第5学年 Unit3 What do you want to study?

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

授業の初めに、授業者から配布されたフォニックスプログラムを各自の端末で確認し、発音の確認を行っている。

自分のペースで動画を見返すことができるため、個別学習に効果的である。

英単語を調べたいときには、「Picture Dictionary」というデジタル教科書を個々に開き、英単語や発音の確認を行っている。

スペルだけではなく発音や基本チャンツも繰り返し個々のペースで練習できる。

また、単元の終わりにはデジタル教科書を開き、聞き直したい英文や見直したい動画を確認し、学習内容の振り返りを行っている。

自分が必要な箇所を適宜確認できるため個に応じた主体的な学びへとつながる。



音声教材を聞いている様子

外国語 小学校第5学年 Unit4 He can bake bread well.

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

外国語で、他者とコミュニケーションを行うには、適切な言語材料を活用することが必要である。

そこで、Enjoy Communication では、習った単語や表現を使いながら友達と楽しく伝え合う活動を行っている。

発音分からない児童や、気になる単語を調べるための手立てとして、デジタル教科書を使って活動の直前に音声や映像で確認をすることを取り入れた。

このように、個人学習の時間を確保することにより、個々にあった学習ができ、一人一人が自信をもって活動に参加できると考えた。



動画を見て表現を確認する児童

外国語 小学校第5学年 Unit4 He can bake bread well.

インタビューでの活用

書き込み

can と can't の表現を身に付け、Can you ～と尋ね合いながらコミュニケーションを深める授業を行った。

まず児童は先生ができる、できないかを予想、インタビューし書き込む。

次に、友だちにインタビューし、できる人の名前を書き込む。

Let's try 2 では何回も同じ箇所に書き込みをしなければならぬが、デジタル教科書を使うことですぐに書いたり消したりすることができた。

自由に席を移動しながら交流するアクティビティなので、これらの作業がスムーズに行えることにより、たくさんの友だちとコミュニケーションを取ることができた。



友だちにインタビューしている様子

外国語 小学校第5学年 Unit4 He can bake bread well.

英語の歌での活用

動画再生

資料閲覧

Unit ごとに Let's Sing が設定されている。

音声流れる部分はカラオケのように色が変わっていくので、それを見て英文を発音することができる。

また、画面右上の二次元コードをタップすると全体の歌詞をスクロールできるようになり、全体の英文やその次の英文を先読みすることができるようになった。

単語の発音だけではなく、全体の英文として捉えることができるので、学習指導要領の外国語の内容項目(2)読むことのイ「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」ことを意識して指導できた。全体の歌詞を見る前と比べると声が大きくなったことに加えて、歌っている英文の意味が分かる児童が増えたので効果があると考えられる。



歌いやすいように全体の歌詞を表示する様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

単語の確認での活用

朗読音声再生

外部出力

地図を見て児童が目的まで尋ねたり、答えたりする単元である。

あらかじめデジタル教材の「どうぐばこ」にある英単語の練習をして建物の名前を覚えたり、前に進む、右や左に曲がるなどの動作を覚えたりして、英語での道案内の言い方を学習する。

何度も繰り返し発音することで、覚えることができた。

その後、大型モニターに教科書と同じ地図を表示しながら問題を解いていく。

会話を聞きながら地図上を移動していくが、今自分がどこにいるのかを大型モニターに表示しながら進むことで、聞き取れなかった児童に対してもサポートすることができた。

また、実際の映像も含まれているので、より現実的なイメージをもつことができた。最後には自分たちで地図を見ながら問題を出し合うことでまとめとした。

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

朗読音声再生

地図を見ながら、turn、go straight の確かめを行った。

実際に箱を使って on,in,by,under の説明を受けた。

CD や ALT の先生から聞いて理解した発音をもとに、デジタル教科書を使って発音のリピート練習をした。

その後、ゲームのようにして、一人ずつ"Ball in the box""Ball on the box"などと A L T の先生が指示する言葉を聞いて、実際にボールを置く場所を確認することで、定着を図った。



大型提示装置を活用して、全体で共有する様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

本格的な外国語の学習が始まった5年生にとって、デジタル教科書は習得度を高める手助けとなる。

Let's sing や Let's Chant では映像とともに流れる歌を聞き、より身近な英語に触れることができる。国によって異なる標識も、映像を見ることで分かりやすく学ぶことができる。

Picture Dictionary の音声は、映像とともに学ぶことで発音が覚えやすい。さらに、個人で聞くことにより、一層、理解が深まる。道案内の仕方は言葉だけだと分かりづらいが、映像と音声を同時に聞くことで、より分かりやすく理解することができ、学習の手助けとなる。

実際に話すコミュニケーションの場面では、事例を映像、音声、文字と連動して視聴し、より多くの表現を使って英語を話すことができる。



道案内の練習の様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

朗読音声再生

教科書で使用する単語の一覧が Picture Dictionary で確認できる。

全体で発音練習を行った後、個人で単語の発音練習をする時間を取り入れた。

単語量が多いため、全体での練習のみでは習得しきれない単語が出てくる。

自分のペースで発音を習得したい単語を繰り返し聞くことができるので、意欲的に学習に取り組むことができる。

単語の発音練習後に教科書に沿った学習活動に取り組んでいる際に、自分が言いたい単語の発音がわからない児童がいた場合、再度 Picture Dictionary を開いて、音声を聞いて発音を確認する時間を設けることにより、実践的に単語の発音を習得することが可能になった。



音声を聞いて単語の発音を確認する児童

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

朗読音声再生

外国語の授業では、各単元で習う語句や表現などを音声聞いて繰り返し発音練習する時間を設けている。

児童がそれぞれ自分のペースで、音声を繰り返し聴き発音練習に取り組んでいる。

「Where is the post office?」では、場所や位置の尋ね方や答え方などについて、道案内、位置、日常生活、建物などに関する語句や表現を用いて、聞いたり、伝えたりする技能を身に付ける。自分のペースで繰り返し発音練習ができる。



音声を聴いて発音の練習をしている様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

拡大縮小

書き込み

朗読音声再生

デジタル教科書は画像や文字を拡大することができ、細部まではっきりと見ることができる。

拡大させた画像を見せ合いながら気づいたことを話し合ったり、違いを見つけたりするなど、デジタル教科書を通して児童の対話を深めることができた。

また、単元で学習する基本の表現をネイティブの発音で何度も聞くこともできる。

学級全体の指導では理解が不十分だった児童でも、自分のペースで発音を確認しながら練習することができた。さらに、書き込みや修正を容易にできる。目的地までの複数のルートの色分けして簡単に書き込むことができた。途中で分からなくなった児童が「ここからが分からないから教えて」と、お互いのタブレットを見合いながらルートを確認め合い、理解を深めることができた。



画面を確認しながら学び合いをする児童

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

道案内での活用

書き込み

場所をたずね、相手を案内する学習で「私の行きたい場所クイズ」を行った。

地図を使って、教師の“You are here.”でスタート地点から書き始め、“Go straight for two blocks.” “Turn right.”等の指示通りにペン機能を使って道順を書き、行き先を○や□で記録する。

行き先に着いたら“Post office?” “Yes, That’s right!” とやりとりする。

線の形状や色を変えることで見やすくなる。

はじめは教師が出題するが、慣れれば児童のペアで出題者とタブレットに書く人の役割を交代するとより多く発話できる。

紙の教科書を使って全体で学んだあとの個別学習タイムとして使うと効果的であった。



描き込んだ道順に沿って説明する様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

道案内での活用

書き込み

外部ソフト連携

目的地までの道順を児童が互いに案内し合うペア活動で活用した。案内された経路などを地図上に書き込むことができ、自分が案内をする際には、それを手がかりに相手がどの位置にいるのかをとらえやすくなった。また、方向感覚が十分に育っていない児童にとっては、視覚的な支援となった。さらには、容易に書き込みを繰り返すことができることから、多くの相手との交流を保障することにもつながった。

また、ロイノートに地図画面をスクリーンショットしたものを取り込み、児童がそれぞれに自分の身近な施設やお気に入りの場所、オリジナルの建物などを地図上に盛り込むことで、単にやり取りをするのではなく、児童にとっての身近なものから英語への学習意欲を喚起することができた。



地図で案内する様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

朗読音声再生

外国語のデジタル教科書は、キーセンテンスを何度も聞き返せるという利点がある。

チャンツや教師と ALT のデモンストレーションを聞いた後、キーセンテンスの暗記の個人練習を行った。

その際に、デジタル教科書を頼りに発音練習をするよう指示した。

個人練習で何度も聞き返して、友達と確認してキーセンテンスを覚えるのに役立った。

しかし、学習者用のデジタル教科書の機能と教師用デジタル教科書の機能が乖離しすぎていて、教師用にしかない機能がたくさんある。

コンテンツのボタンや作りも違うので、児童に説明するときと同じものを使って説明できないという課題もある。



キーセンテンス練習をする様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

道案内での活用

朗読音声再生

ユニット5では道案内の英語表現を学習する。前提として、実際の道案内の場面を見せることにより、児童がどんな場面でどんな話をしているのかがわかることをねらいとして、デジタル教科書を用いる。

動きがあり、自然な流れの英語を見たり聞いたりすることは、児童にとっては良い刺激になっているように見受けられる。

また、同年代の児童が英語を使っていることに驚きをもって見ているように感じられる。紙の教科書にはない良い点の1つである。1回目はただ見せる。2回目にはいくつかの質問を用意し、集中が途切れることのないように配慮し見せた。2回とも児童は真剣に画面を見ていた。今回は電子黒板で一斉に見せたが、今後は個人レベルでも使用していきたいと考えている。



道案内の様子を大型提示装置で確認する様子

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

資料閲覧

場所がどこにあるのか聞いたり答えたりする学習で活用した。

教科書の絵を見ながら、「Where is the book?」「It's on the desk.」などのやりとりを友だちとペアで行う。

児童は分からない単語を調べるために Picture Dictionary を使用するが、児童用デジタル教科書は教科書と Picture Dictionary を二画面で表示できるので、タブレット1つを持ち歩くだけで自信をもって友だちとやりとりすることができる。

発音を忘れた時も、すぐに自分で言い方を確認することができ、外国語を苦手とする児童も安心して活動に取り組むことができる。



PictureDictionary で単語を確認する児童

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

発音確認での活用

朗読音声再生

「食べ物」や「動物」の英単語に比べ、このユニットで用いられる「場所」や「建物」の英単語は、児童にとってあまり聞きなじみのない単語である。

そのため、「Picture Dictionary」のデジタル版を使い、単語を聞く個人練習を毎時間2～3分ほど行うことで、なじみのない単語も聞きやすくなり、次第に単語に慣れていくことができる。

また、「It's on～」や「It's by～」などの前置詞を学習する際には、on や by 等の前置詞が短い単語であるため、聞き取ることが非常に難しい。

デジタル教科書の音声教材を活用することで、各児童のペースで何度も聞くことができ、落ち着いて「聞く」活動に取り組むことができる。



デジタル教科書を使った学習の流れ

外国語 小学校第5学年 Unit5 Where is the post office?

英語の歌での活用

朗読音声再生

外国語では、それぞれの Unit で押さえない表現が練習できる Let's Sing を毎時間活用している。

ジェスチャーを交えながら、楽しく毎時間繰り返し歌うことで、Unit の終わりには自然と押さえない表現が身についている。

児童の習熟に合わせて、「ゆっくり・普通・速い」と曲のスピードが選択できるのも効果的である。

また、カラオケのように字幕がついていくため、スペリングを読む力がつくことも期待できる。

また他の単元では、Picture Dictionary のイラストを用いて発表ノートを準備し、単語と絵を結びつけて視覚的にも分かりやすくスピーチをすることができている。



読む速さをかえて授業を行っている様子

外国語 小学校第5学年 Lesson6 My Hero

発音確認での活用

朗読音声再生

この単元の教材" My Hero"には、自分にとってのヒーローを友達に紹介している様子が収められている。3本立ての漫画となっており、1話は架空の人物、2話は実在の人物である。自分にとってのヒーローができることや得意なこと、時にはできないこと、そして、どんな人物だと思うかを伝え合っている様子が収録されている。

3話全てが児童の興味を引く話題であり、自然なやりとりの音声を聞くことができるため、繰り返し聞き、真似ることにより、基本的な表現を習得することができた。

音声の速さを複数段階で変更できたり、「ここを読む」「ここから読む」など、聞きたい場所を自分で指定したりできるため、学習の個別最適化に有効であり、主体的な学びを促すこともできた。



教科書の内容を音声で確認している様子

外国語 小学校第5学年 Lesson1 I have many yo-yos.

アルファベットの学習での活用

図形等操作

朗読音声再生

本単元は5学年にとって最初の単元であり、アルファベットやローマ字で自分の名前を書いたり、読んだりする活動を行う単元である。

そこで、楽しくアルファベットに親しませるための動機づけとして、デジタル教科書を活用した。具体的な活動としてはアルファベットの発音を確かめたり、小文字と大文字を動かして、ペアを作ったりする活動等を行った。

この活動を通して、児童は興味を持って英語に親しむことができ、視覚的に分かりやすく理解したり、興味関心をより高めたりすることができた。

また、アルファベット以外にも「world chant」で学習した単語を繰り返し聞くことで、正しく発音できることにもつながっている。



アルファベット発音確認機能を活用する様子

外国語 小学校第5学年 Lesson3 She is a cook.

発音確認での活用

朗読音声再生

「She is a cook.あの人だれ?」のレッスンでは英語の職業名を覚えることが一つの目的である。

最初の2ページには職業名の音声収録されており、それぞれの絵をクリックしながら正しい英語の音を確認した。

そのほかにも童話に出てくるキャラクターがあり、クリックしながら楽しく学習することができた。

デジタル教科書を使って個別に15分くらい発音練習をした後で、教師と共に発音のしかたを確認した。

デジタル教科書の活用は、正しい英語の発音を習得するのに効果的である。



発音練習を行っている児童

外国語 小学校第5学年 Lesson3 She is a cook.

発音確認での活用

朗読音声再生

各単元の最初の Panorama のページを使って、友だち同士で問題を出し合う活動を行う。

本時では、「Who am I?」と質問し「He(She) is a～」と答える。

事前に ALT と一緒に確認してから行うが、発音の仕方が分からない児童はい画面をタッチすると発音してくれるので答えを確認することができた。

1人1台のタブレット端末を操作できるので、自分の知りたいものの単語を理解するのに効果的である。

ALT がいない時にも、ネイティブな発音に親しむこともできる。問題を出し合う時には、2～4人で活動を行うことで、児童の発言できる回数が増え、意欲的に取り組む児童がたくさんいた。見て欲しい部分を拡大することで、注目を集めることもできた。



Panorama の音声再生している様子

外国語 小学校第5学年 Unit4 What time do you get up?

一斉指導での活用

書き込み

動画再生

外部出力

学習者用デジタル教科書の活用は、個別最適な学びを実現するために欠かすことができないが、一斉指導の中でも有効に活用することができる。

例えば、本事例は演習場面での活用事例である。問題に取り組む際、映像は黒板横の電子黒板上で流し、学級全体で映像を見ながら個々の学習者用デジタル教科書上に解答を書き込ませることとした。自分のペースで聞き直しができないからこそ、集中して聞き取ろうとする児童の姿が見られた。

また、紙の教科書に書き込むと一度しか問題に取り組むことができないが、デジタル上だと繰り返し問題に取り組むことができるのが利点である。もちろん、家に帰ってからも自分で問題に取り組むこともでき、家庭と学校の学びのつながりも期待できる。



音声聞きながら解答を書き込む様子

外国語 小学校第5学年 Unit2 I study math on Monday.

スピーチでの活用

動画再生

朗読音声再生

どの単元の学習でも、最終活動として Final Activity が設定されている。

各単元の Final Activity をタップすることにより、スピーチのモデルを視聴することができる。

音声だけでなく、児童が実際に Final Activity に取り組んでいる様子を映した映像が流れるため、児童にとって、最終活動のイメージをつかみやすい。



スピーチを視聴する様子

スピーチのモデルを繰り返し視聴し、復唱することで、どのような内容を伝えればよいか確認でき、自分のペースに合わせて、スピーチ練習に取り組むことができた。

また、掲示物を指さしたり、身振り手振りを交えたりするなど、聞き手によりよく自分のことを伝えるための工夫にも気づくことができた。

外国語 小学校第5学年 Unit3 I sometimes walk the dog.

音読練習での活用

朗読音声再生

学習者用デジタル教科書は、聞きたい音声を自分のペースで必要な回数だけ聞ける良さがある。

一方、個々の端末で音を出すと教室が騒がしくなり、使用する場合は個人用イヤホンを準備させるなど使用上の配慮が必要である。

そこで家庭学習での活用を試みた。単元3では always/usually/sometimes/never という頻度の入った表現を学習する。



タブレットでチャンツを行う児童

チャンツを使い練習したが、一斉授業では数回しか練習できず習熟が不十分の児童もいた。そこで週末課題として①チャンツの音読練習をする、②チャンツのリズム演奏に合わせ音読を録画し提出する、という課題を出した。翌週の授業でチャンツを全員で音読した際、明らかに英語の発音やリズムが上達し、児童が自信をもって音読する姿が見られた。

外国語 小学校第5学年 Unit5 This is my sister.

音読練習での活用

朗読音声再生

新出語句や表現のジングルやチャンツを定着させるには、繰り返しの練習が必要である。しかし、クラス全体での練習では、リピートするだけになりがちで、苦手意識をもっている児童は飽きたり、声を出さずにすませたりして、単語の発音の確かな習得には課題があった。

そこで、全体練習を行った後、個々のタブレットとイヤホンを使って数分間個別の練習時間を設定した。



イヤホンで個別練習する児童

一時停止をして自分の苦手な箇所に立ちどまったり、ミュート設定、字幕の有無を選択したりするなど、児童はデジタル教科書の様々な機能を使って、楽しみながら積極的に自分の力を伸ばしていくことができた。授業の導入でこのような取り組みをしたことで、その後の発表や対話活動に自信をもって取り組む姿が見られた。

外国語 小学校第6学年 Unit2 How is your school life?

発音確認での活用

朗読音声再生

外部出力

児童にとってネイティブな発音の英語はあまり聞きなじみのないものであるが、画面上のマークをタップするだけで、本格的な英語の発音を聞くことができる。

そのネイティブな発音を聞きながら発声練習も行うことができるので、児童が話すときにも、よりネイティブに近い発音を練習することができる。



ネイティブな発音の音声を聞いている様子

また、教科書と同じものが大型モニターに映し出されるので、教科書を指し示しながら、視覚的にも分かりやすく指示を出すことができる。

外国語 小学校第6学年 Unit3 Let's go to Italy.

発音確認での活用

朗読音声再生

“You can eat pizza.”や“it's delicious.”などの表現や Picture Dictionary に載っている国名や観光名所などを使って自分が行きたい国を紹介する活動に取り組んだ。

発表練習に取り組む際、ALT や教師が机間指導をしながら発音の仕方を伝えるだけでなく、発音分からない児童が発音を聞いたり、気になる単語を調べたりするためにデジタル教科書を活用した。

一人ひとりが必要としている部分の発音や語順を繰り返し、何度も聞けるため、個々にあった学習ができ、児童も意欲的に学習に取り組むことができた。



行きたい国を紹介する様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the World

発音確認での活用

朗読音声再生

多くの児童にとって、英語を話したり聞き取ったりする学習は、非日常の体験である。

デジタル教科書を活用することで音声を繰り返し聞ける環境で学習を進めることができるので、英語を聞き取ることに對しての不安が徐々に解消されていく様子が見て取れる。

また、デジタル教科書のネイティブな英語を常に聞くことができるため、児童は自然に正しい発音を身につけ、話す活動ができるようになっている。

本単元では、児童が過ごした夏休みの暮らしを「I enjoyed ~ing」というフレーズを使ってスピーチを行う単元である。デジタル教科書には、多くの例が取り上げられているため、児童はその例を参考に自分のスピーチ原稿を作成することができる。



音声を参考にスピーチする様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

夏休みの過ごし方について尋ねるときのやり取りを学ぶ単元である。

児童は「ice cream」や「sea」など、夏に関する単語はたくさん知っており、声に出すこともできている実態であったが、文章として自分の出来事を伝えたり、相手に尋ねたりすることが難しい状況であった。

そこで、デジタル教科書の音声動画で文章の構成などを確かめながら、自分の出来事に置き換えて文章づくりを行った。

また、わからない単語があったとしても、その場ですぐに調べ、発音まで音声として確認できる所も、デジタル教科書のメリットであるといえる。



音声を使って語句を確認する様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

外国語科において「聞く」学習はとても重要な学習活動である。

しかし、理解度の個人差も大きい学習である。そこで、デジタル教科書を使用し、イヤホンをつけて、個人で英語の音声を聞いたり、動画を視聴したりして個別に学習を行う。

その際には、英語の音声でもう一度聴きたい部分を、自分で操作して、繰り返し聞くことができる。

また、途中で音声を止めることで、思考を整理することもでき、自分のペースで学習することができる。

このような学習をしていくと、個々のレベルに合わせた学習ができる。



英語の音声を聞く児童

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

発音確認での活用

朗読音声再生

これまで聞き取りテストを行う前には、デジタル教科書を活用し、英単語や英文をしっかりと聞く時間を設けている。

ネイティブの発する英語を自分のペースで何度も繰り返し聞くことができるため、英語と日本語の音調やリズムの違いをより正しく理解することができ、効果が上がっている。

また、英語の授業では毎單元ごとにスピーチを取り入れているが、何度も繰り返し聞くことで英語特有のアクセントや抑揚等を意識しながらスピーチ練習に生かすことができている。

デジタルを取り入れ、テンポよく英語に触れることにより、これまで以上に英語に興味を示し、好きな児童が増えてきている。



自分のペースでネイティブの発音を再生する様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

発音確認での活用

朗読音声再生

ドリル問題

この単元では、すでに知っている eat や go などの単語の過去形を使って、夏休みの出来事を会話していく。

過去形については、初めて出会うので、児童にとっては発音が一番不安である。また、会話をしていく際には「様子」や「自然」の単語を発音できることが必要になってくる。そのため、家庭学習で単語の聞き取りと発音に取り組んだ。

授業では、発音練習をしているが、もう一度聞きたい単語も一斉授業では流れていってしまうこともある。デジタルドリルでは、授業と同じ単語や例文を、自分のペースで何度も聞くことができるので、授業で会話をしなければいけないときにとても効果的であった。

ただし、持ち帰る前に指導のための操作練習が必要であった。



デジタルドリルを活用している様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

発音確認での活用

朗読音声再生

夏休みの思い出を日本語で記す。

文の最後が「～した」となることに気づかせ、過去になることを確認する。

過去は動詞が変化することを知らため、電子教科書『Picture Dictionary』から過去にあたるページを探し、見つけた単語の音声を自分が聞き取れるまでしっかり聞き、聞こえた読み方をメモする。

教師が電子黒板で音声を流し、一斉に発音練習をする。過去形に興味をもったところで、自分の夏休みの思い出も英文に変えてみる。教科書を参考にして文を作ったり、翻訳サイトで文を変換したりして、自分の英文を話せるようにしていく。最後に教科書の中の質問文「How was your summer vacation?」の発音を電子教科書で確認後、友達にインタビューしていく。



夏休みの思い出を英文にしている様子

外国語 小学校第6学年 Unit4 Summer Vacations in the world

インタビューでの活用

拡大縮小

外国語の授業では毎時間 Small Talk という言語活動の時間を設けている。

Small Talk は既習の英語表現の定着と自力で会話を続けようとする姿勢を育むことをねらいとしている。

しかし、児童は既習の言語材料が十分に蓄積されていないことが多く、会話も限定的になりやすい。そこで多くの英単語に触れ、会話のレパートリーを増やすことをねらいとして本活動に取り

組んだ。児童がペア同士互いに質問をし合う際、回答者は質問者がタブレットで示したピクチャーディクショナリーの単語を使って答えなければならないと児童にルールを伝える。このような活動を数人と繰り返すことで、今まで自分が使ったことのない新たな単語を使って会話を楽しむ機会を増やすことができる。



回答キーワードを指定して会話する様子

外国語 小学校第6学年 Unit5 We all live on the earth.

発音確認での活用

動画再生

朗読音声再生

英単語の復習タイムで、自分の苦手な分野の言葉を選び、発音練習を行った。

普段は ALT の先生の発音を聞いて全員で練習を行うが、デジタル教科書を使用することで、自分にあった練習を選択できる。

メトロノームのリズムに合わせて音が鳴っているので、よりスムーズな速さで言う練習にもなる。

また、会話文が聞けたり、動画を見たりすることができるので、個人学習の際に復習として使うこともできる。



英単語の発音練習をする様子

外国語 小学校第6学年 Unit5 We all live on the earth.

発音確認での活用

朗読音声再生

最初は教室のモニターに映しながら全体で単語の練習を行った。

その後は、児童によって覚えた単語が違うので、デジタル教科書を使うことによって、Picture Dictionary に載っている単語であれば個人的に聞き取れなかった単語を何度も聞いてまねをするなど、個人のペースに合わせてながら活動ができた。

別室で個別で学習している児童も同様に使うことができた。

休み時間や家庭にいるときなど、いつでも確認したいときに確認できることはとても効果的である。



個人のペースで行う発音練習の様子

外国語 小学校第6学年 Unit5 We all live on the earth.

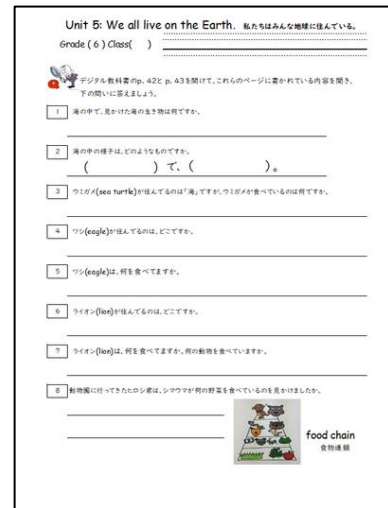
個別学習での活用

拡大縮小

動画再生

朗読音声再生

Starting Out の音声と一部映像を活用した。児童は、自分で聞きたい部分を何回も繰り返し聞き聞かせることができていた。わからない部分に対して自分で取り組めるため、学習効果は上がる。しかし教室内では、他者端末からの音声が入り混じるため、ヘッドフォン等が必要となる。そこで、聞き取りの手がかりとなるようワークシートを用意した。これにより、設問に従って進められるようになり、聞き取りが改善した。また、言語理解に映像資料は欠かせない。手元で各自が視聴することで、理解を深められた。Starting Out の全映像視聴および「世界のすてき」の画像拡大が可能になれば、さらに効果が上がる。話し手の背後の映像から得る情報は大きく、さらに理解が深められる。



学習者用デジタル教科書を活用した指導事例ワークシート画像

外国語 小学校第6学年 Unit5 We all live on the earth.

スピーチのモデル確認での活用

動画再生

朗読音声再生

英語で発表することに慣れておらず、不安な気持ちになってしまう児童が多い。

学習者用デジタル教科書では、児童が必要なときにモデル発表の動画を見ることができる。

グループ内で発表の練習をするときに、この機能を活用することで、英語の発音の仕方やポスターの活用の仕方などを学ぶことができた。モデル発表の動画を上手く真似して、聞いている人が考えやすいように、間を置いたり、言い方を工夫したりできるように練習した。この単元では、「動物・生き物・虫」といった多くの種類の英単語を扱っており、苦戦している児童もいたが、Picture Dictionary の音声機能を使って、繰り返し英単語を聞いて確認した。見本があることで、自信をもって練習に取り組むことができた。



発表のしかたをグループで確認している様子

外国語 小学校第6学年 Unit7 My Best Memory

個別学習での活用

朗読音声再生

ドリル問題

外部ソフト連携

フラッシュカード機能では、児童の習熟度に合わせて再生速度の調整やランダム表示を使い分けることで、児童の習熟度に合わせた学習活動が可能になる。

児童が英語で思い出を伝え合う活動では、音声が必要に応じて聞き直すことで、英語で話すことへの不安感を抱く児童や、表現したいことがうまく伝えることのできない児童に対して、より発話を促すことができる。授業の終わりに個別学習の



フラッシュカード機能で学習する様子

時間を設け、児童が自身の理解度に合わせて、語句の発音や表現を確認したり、チャンツやリスニングの音声を確認したりすることで知識の定着につながる。また、授業支援アプリを活用して、デジタル教科書に付属するPDF化したワークシートを配布し、児童が端末上で単語のなぞり書きに取り組むことができる。

外国語 小学校第6学年 Lesson6 My summer vacation

個別学習での活用

拡大縮小

書き込み

朗読音声再生

イラストの拡大、テキストに直接入力、音声の聞き取り等の活動を行う際に、デジタル教科書を使用している。

この単元では、児童自身が単語を並べ替え、英語の語順を意識して発表に取り組んだ。自由に文を構成できるので、児童は意欲的に活動に取り組んでいた。

また、発表前の練習では、手本を見直したり、単語の意味や発音を確認したりするときにデジタル教科書を使用した。

児童は発音をすぐに知ることができ、便利さを感じているようであった。



単語の意味や発音を確認する児童

外国語 小学校第6学年 Get ready2 My Memories

個別学習での活用

書き込み

朗読音声再生

外部出力

夏休みの思い出がつまった一枚絵のパノラマを大型テレビに映し、画面を指さしながら「What is this?」「Who is this?」と楽しい雰囲気で見聞に問いかけ、やり取りを行う。

分からない単語は、全体で確認しながら単語や表現に慣れ親しませていく。

次のステップでは、自分のタブレット上で、ALTのPanorama Talkから聞き取れた英語に合うイラストにマークを入れていく。

聞き取った英語をペアで伝え合う活動時には、タブレット上のイラストを長押しすれば音声が出るので、正しい発音を見聞自らが確認しながら学習を進めることができる。



Panorama Talk のリスニングを行う見聞

英語 中学校第1学年 複数の単元において

復習での活用

朗読音声再生

全学年を通して、授業の復習を音声教材を使い生徒が自らの進度に合わせて復習に活用した。

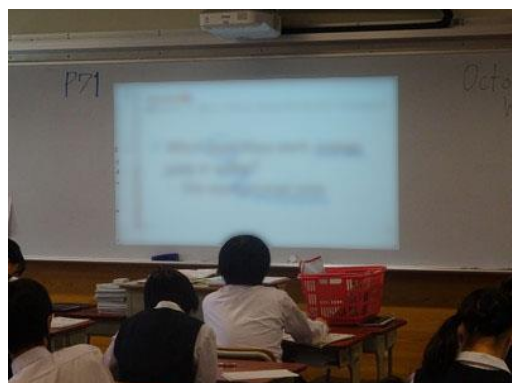
【例1】デジタル教科書の音声を聞きながら教科書本文をシャドーイングし、音読練習をする。

【例2】デジタル教科書の音声を聞きながら、教科書本文を書けるように練習する。

音声と文字の関係性を確認しながら、英単語や英文を定着させることができた。

デジタル教科書の音声スピードを生徒の実態に応じて変化させ、各自の課題達成状況にあわせた復習が可能となった。

デジタル教科書のネイティブスピーカーの発音を真似したり、聞きながら英文を書く練習をしたりすることによって、ネイティブの発音に慣れ親しみ、生徒自らがネイティブの発音ができるように心がけようとすることができた。



スクリーンに映したタブレットの画面

英語 中学校第1学年 複数の単元において

音読練習での活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

それぞれの単元にある Read のパートで内容理解や音読練習を全体で行った後、自分ができる部分がない部分を個人練習させる。

連続再生をオフにし、苦手な文を重点的に練習し、音読したものを録音させて、授業支援クラウドで提出させている。

また、連続再生をオンにしてシャドーイングの練習をしている。

英語の教科書では、音声再生機能を使い、これまでの授業では難しかった個人の音読練習ができるようになった。



音声再生機能を使っている様子

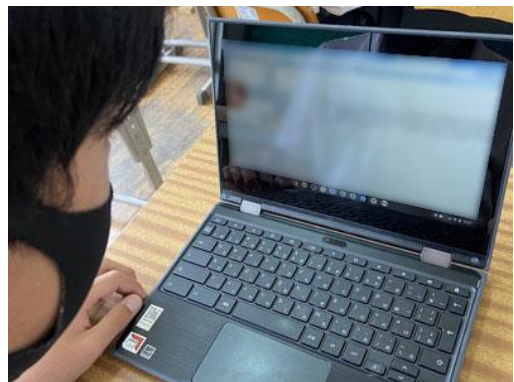
英語 中学校第1学年 複数の単元において

音読練習での活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

一斉授業の中で、個々の発音の改善指導をしていくことは大変難しい。学習者用デジタル教科書の読み上げ機能を使えば、個々の習熟度に合わせた速度でリスニングや音読を行うことができる。また、音声認識システムを活用することで、生徒は発音の正しさを自分で確認することができる。まず、本文のリスニングと音読練習を生徒のペースで進め、次に、聞き取った文を文書作成アプリに音声入力する。



聞き取った文を文書作成アプリに音声入力する生徒

活動のポイントは、個々の習熟度に合わせて再生速度を変えたり、特定箇所の再生を繰り返し行ったりさせることである。生徒のアンケートには、「自分の発音が正しいかを自分で確認できる」「正しく音声入力できるように、何回も挑戦したくなる」「自分のペースで進められる」などの意見が見られる。

英語 中学校第1学年 複数の単元において

個別学習での活用

書き込み

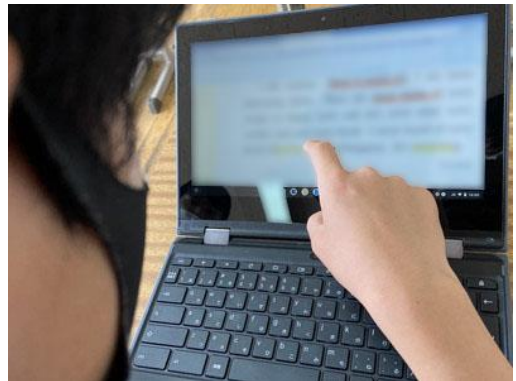
学習者用デジタル教科書に、新出単語、重要語句、既出でも覚え直しが必要な単語など、ペン機能の色を変えて、自分に合った書き込みを行う。

簡単に消すこともでき、振り返り学習の際に有効である。

分からなかった単語や重要表現に線を引き、振り返りの時間に見直しをすることで、まとめ学習の参考にする。

活動のポイントは、自由に線を引かせ、自ら学習を調整できるよう促すことである。

生徒のアンケートには、「どこを間違えたのか後ですぐに分かるから見直しがしやすい」「色ペンで書いたり消したりが簡単にできるから使いやすい」などの意見が見られた。



単語や重要表現に線を引く生徒

英語 中学校第1学年 複数の単元において

ディクテーションでの活用

書き込み

朗読音声再生

本格的な文字指導が始まる中学校1年生では、英語の発音とローマ字の表記とで表し方が違ったり、綴りが覚えられなかったりすることなどを理由に、英語への抵抗感や苦手意識が強くなる生徒がみられる。

音声から文字へと移行することで、スムーズに小学校から中学校につなげることができる。

手順は、まず、本文にマスクをかけ、次に、1文ずつ止めながら本文を聞き、ノートに書く。そして、

本文のマスクを外し、答え合わせをする。活動のポイントは、聞き取った単語を正確に綴れているかどうかを丁寧に確認させたり、連結、脱落、同化などの音声変化を意識させたりすることである。生徒のアンケートからは、「聞き取れない単語もディクテーションをすることで分かるようになる」などの意見が見られた。



本文にマスクをかけ1文ずつ聞き取る生徒

英語 中学校第1学年 複数の単元において

単語学習での活用

書き込み

朗読音声再生

新出単語の意味や発音を確認する際に学習者用デジタル教科書を使うと、個々の習熟度に合わせて意味の確認や発音練習ができる。

また、学習速度が速い生徒は、英単語にマスクをかけるなど、より高度な学習に取り組むことができる。

手順は、まず、新出単語の意味や発音を確認し、次に英単語にマスクをかけて自分で確認テストを行う。活動のポイントは、個々の習熟度に合わせて再生速度を変えたり、特定箇所の再生を繰り返し行ったりさせることである。生徒のアンケートからは、「分からなかった発音を、覚えるまで繰り返し確認することができる」「過去の単語について発音が分からなくなったときにすぐに確認できる」などの意見が見られた。



英単語にマスクをかけて確認テストを行う生徒

英語 中学校第1学年 Unit6 "A Speech about My Brother"

発音確認と音読練習での活用

朗読音声再生

本文が載っているサイトにすぐに移動することができ、本文やイラストがとても明瞭で見やすい。こうした点は音読活動にはとても有効で、生徒それぞれが本文を見ながら、発音を確認することができた。読み上げ機能によりスピードを変えることができ、それぞれの理解度にあった設定で行うことができた。

これまでは発音をインターネットで調べることや、お互いの確認をすることに時間を費やしていたが、効率よく学習を進めることができるようになった。

ただし、本校にはイヤホンやヘッドホンがなく、生徒のお互いの音声が被り聞きづらい場面もあった。新出単語の確認では、それぞれがネイティブの音声を聞いて確認し、練習することで発音が苦手であった生徒も意欲的に取り組むことができた。



スピードを変えながら新出単語の発音確認の様子

英語 中学校第1学年 Unit6 "A Speech about My Brother"

発音確認と音読練習での活用

書き込み

朗読音声再生

デジタル教科書を使用すれば、生徒が短時間で新出語句の発音の確認や本文の内容の復習をすることができる。

英語が苦手な生徒でも、デジタル教科書を使用し、音声を聞くことで、自分で単語の発音を確認できることが良い。

また、分からなかった語句に、マーカーを引いたり、メモをとったりできるので、生徒が自分なりにデジタル教科書を使ってまとめることもできる。

本校には、生徒用のイヤホンマイクやタッチペンがないので、一斉に英文を再生すると聞き取りにくかったりするほか、デジタル教科書に細かい文字で書き込むことができない点が課題である。



新出語句の発音確認と英文音読練習をする様子

英語 中学校第1学年 Lesson4 My Family, My Hometown

家庭学習での活用

朗読音声再生

学習者用デジタル教科書は英語の本文を読み上げる機能があるため、デジタル教科書で発音を聞いてから、生徒によっては聞きながら音読をすることで自分の発音に疑問を感じることなく、自信をもって音読に取り組むことができる。

また、学習者用デジタル教科書がクラウド上にあることで家庭学習でも活用している。

家庭学習でも読み上げ機能の使うことにより、学校で教師やALTが範読をした時とほとんど変わらない環境で音読の練習をすることができる。

また、音読だけでなく Listen（聞き取り問題）や単語練習など家庭で音声を伴う学習をする際に様々な場面で有効に活用することができる。



家庭学習で読み上げ機能を活用する

英語 中学校第1学年 Lesson4 My Family, My Hometown

発音確認と音読練習での活用

書き込み

朗読音声再生

授業の中では新出単語や本文の読み練習を毎回行っている。

1年生でも難しい単語が多く使われており、デジタルテキストを使った個人での練習を取り入れることで、正しい発音を確認でき、自分のペースで分からない単語や文を集中的に練習することができる。

また、画面上に書き込みができるため、読みにくい単語に印をつけることで、視覚的にも自分の苦手な単語が分かりやすく、より効率的な練習につなげることができる。



新出単語や文の読み練習をする生徒

英語 中学校第1学年 Lesson4 My Family, My Hometown

音読練習での活用

朗読音声再生

Which do you like,○○or○○? の文型を用いて相手の好みを聞き、タブレットに提示された食事メニューの中からおすすめを自分で考えて提案するという内容で授業を実施した。

全体学習で一通りアクティビティを実施した後は、音読活動の一環としてデジタル教科書を活用した Read It Yourself を実施している。

Read It Yourself は、生徒自身で回数・速度・ポイントを選択して音読するベーシック活動と、ディクテーションを行うアドバンス活動の2つに分かれている。

生徒はその学習形態（分ける/ミックス）も選択できるため、自分に最適な学習をすることができた。



ディクテーションを行っている生徒

英語 中学校第1学年 LESSON5 School Life in the U.S.A.

個別学習での活用

書き込み

朗読音声再生

生徒が暗唱テストや発表をする際に、デジタル教科書を使用しながら効果的に練習に取り組む。

英単語の正確な発音やアクセント、抑揚などの練習に生徒自身のペースで取り組むことができる。

また、生徒自身のタイミングで「聞く」「読む」「話す」を何度も繰り返し練習することができる。

間違いを恐れずに取り組むことができ、自信をもった状態で発表をすることができる。

そのため、自分の学習状況に応じて自分で考えながら学習できる効果がある。

また、書き込みや保存ができ英語辞書も入っているので、新しい単元の新出単語調べにも役に立ち、個別の学力分析などにも利用できる。



発音練習で活用している様子

英語 中学校第1学年 Unit5 This Is Our School

個別学習での活用

朗読音声再生

授業では、教科書内容を確認し、十分な音読練習に取り組んでいるが、英単語の習熟度に差が生じるので、各自のペースで何度も音読ができるようデジタル教科書の音声機能を活用している。

また授業外では、基礎的な学習習慣を身につけさせるため、家庭学習のプリントに取り組ませている。空欄に合う英単語を記入する項目があるが、デジタル教科書を補助的な教材として家庭でも活用するように伝えている。

また、音声を聞いてシャドーイングさせ、家庭学習課題の提出日には音読テストを行い、スムーズに途切れることなく英文を読めるかどうかを確認をしている。デジタル教科書の最大の利点である、英文スピードの調節機能を活用することで、音読テストでは多くの生徒が、自信をもってテストに挑んでいる。



音声機能を活用している様子

英語 中学校第2学年 Unit1 A Trip to Singapore

個別学習での活用

拡大縮小

文字色背景色変更

英文を音読するときに見られる課題の一つが、英文をなぞり読みする能力の差である。

英文の音読を苦手とする生徒は、改行で文を読み飛ばしてしまったり、どこを読んでいたのか分からなくなったりすることがある。

そこで、学習者用デジタル教科書の表示変更機能を使用し、部分を拡大表示したり、文字と背景の色を反転させたりして、英文の音読をよりスムーズに行えるように指導した。

生徒はデジタル教科書の表示形式を変更し、自分の読みやすい表示形式を選択した。紙の教科書の方が読みやすいという生徒には、紙の教科書を使うよう指示した。この指導以降、生徒は自分に適した教科書の使い方を知り、紙の教科書よりも読みやすいと感じた生徒は、デジタル教科書を使用するようになった。



タブレットを大型テレビに映している様子

英語 中学校第2学年 Let's Read1 History of Clocks

発音確認と音読練習での活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

学級全体で、教師や教師用デジタル教科書の朗読をリピートさせ、生徒同士のペアで音読の練習をさせているが、英単語や英文の読み方を覚えるスピードや練習量は、個人差がある。

そこで、各自のデジタル教科書で単語レベルの発音を確認させたり、文のリピート機能や再生速度の調節機能を使ったりすることで、個人のペースで練習する時間を取ることができる。

本単元、学年だけでなく、教師は生徒個人の音読を確認するため、各自 Sky Menu の発表ノートに音読の動画を貼り付けて提出させているが、生徒自身も動画撮影後、デジタル教科書と自分の音読を聴き比べて確認できる。また、週末はタブレット端末を持ち帰り、デジタル教科書で各自で単語や文の発音やイントネーションを確認することもできる。



リピート機能を使って本読み練習する生徒

英語 中学校第2学年 Unit4 Homestay in the United States

個別学習での活用

朗読音声再生

声に出して読む音読の際に活用した。

普段はテレビ画面を活用し、一斉にリピートしたり、シャドーイングやオーバーラッピングをしているが、文字を読むスピードに個人差があるために、生徒が一人一人デジタル教科書を用いて音読できるようにした。

その際に、各個人のレベルに応じて、スピードを変えるように指示を出すことで英語が苦手な生徒も自分のペースで練習できた。

また、自分が詰まる単語にマーカーを引くことで、視覚的にも自分の苦手を認識できた。課題として、本校では個人のイヤホンがないため、一斉で音声を流したときに自分の音が聞きづらくなる。



自分のペースでリーディングを行う生徒

英語 中学校第2学年 Unit4 Homestay in the United States

マスキング機能の活用

朗読音声再生

「have to + 動詞の原形」を扱う場面において、「暗唱大会をしよう」という学習活動を設定した。

生徒は、何度もリスニングを行ったり、バズ・リーディングを行ったりする必要が生まれる。

そこで、学習者用デジタル教科書の長所を生かした授業展開を構築した。

必要となるのはヘッドセットである。ヘッドセットがあることで、バズ・リーディングの際の周りの生徒の音が気になることはない。また、学習者用デジタル教科書にあるマスキング機能を活用することで、生徒にとって暗唱する際の大きな支援となった。もちろん、個々の暗唱状況に合わせてマスキングの割合を変えたり、スピードを変えたりしながら、個に応じた学習を行うことができるのもデジタル教材の長所の一つである。



マスキング機能を活用する様子

英語 中学校第2学年 Unit4 Homestay in the United States

個別学習での活用

朗読音声再生

デジタル教科書の導入に際し、新出単語の学習の最終確認として時間を設け取り組ませている。

最初に教師主導で教師用のデジタル教科書で一斉に発音指導や日本語の確認を行った後、生徒は個々にデジタル教科書を開き、確認したい単語の音声を聞く、自分で日本語が言えるか確認することができている。

日本語の意味は、マスキングで見せたり隠したりすることができるので、限られた時間で自分のペースで練習できる点で効率的な単語の定着につながる。



自分のペースで新出単語を確認する様子

英語 中学校第2学年 Unit5 Universal Design

音読練習での活用

動画再生

朗読音声再生

ユニバーサルデザインと聞くと特別なもののように感じるが、実際は自分たちの生活の身近にあるということに気づくことができる資料を写真と動画の両方で提示することができる。

また、アニメーションを見ながら英文を聞くことによって設定された場面をイメージしやすくなっている。

音読をする際は、画面に大きく英文を表示することで顔をあげて読むことができる。さらに、読むスピードに合わせて文字の色が変わっていくので英語のリズムを身につけながら読むこともできる。英語を苦手とする生徒にも、読んでいる箇所をわかりやすく提示でき効果的に練習させることができる。読みにくい文を繰り返し練習する際にも簡単に再生できるので、テンポ良く練習できる。



音読練習の様子

英語 中学校第2学年 Let's Read2 A Glass of Milk

音読練習での活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

場面や登場人物の心情の変化を読み取り、気持ちを込めて音読ができるようになることを目的として音読練習に取り組んだ。

学習用デジタル教科書では、二次元コードをクリックするだけで、練習段階から範読を聞くことができ、語と語の間の音のつながりや文のイントネーションなどに注意しながら音読練習することができた。

また、自分自身が音読している様子を録画し、タブレット学習用ソフトを使用して提出をさせた。録画することで自分の音読と学習用デジタル教科書にある範読を聞き比べ、客観的に自分自身の音読を評価することで、修正すべき点に気づくことができた。また録画された音読は教師側も何度も確認することができ、的確なアドバイスができた。



自分の音読とデジタル教科書を聴き比べている様子

英語 中学校第2学年 Program5 Work Experience

音読練習での活用

動画再生

朗読音声再生

新しい文法を含む日常のシーンを英語と動画で学習をしていく scenes の部分では、個々で生徒用デジタル教科書を開き、動画を確認し、自分の聞きたいところから何度も英語を確認しネイティブスピーカーの英語に触れることができる。

実際英語が読まれている文字に赤く色がついていくので、それに合わせてシャドーイングをし、英語を読む練習を自分のペースで行うことができる。

イヤホンを使用するので周りの生徒の学習を妨げることなく行うことができる。

本文の学習でも同様に、リスニング、リーディングの個人練習を自分のペースで行うことができる。文章の表示の仕方も、英語だけでなく和訳を表示できるので、日本語から英語にする練習もでき、文を覚えるのに効果的である。



読む練習を自分のペースで行う様子

英語 中学校第2学年 Lesson1 Peter Rabbit

朗読機能の活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

【1 Listen】①陸（登場人物）の朗読を聞く、②朗読を聞いて、陸が、臨場感を出すためにしている工夫を考え、ワークシートに記入する、③陸の朗読原稿を元に、自分の朗読原稿に工夫できるポイント等を書き込む（意味のかたまり、リンキング、リダクション、強弱など）

【2 Read】①ポイントをもとに声に出して読む。

②動画を撮影する

【3 Check】撮影した動画を見て、改善点を再度原稿に書き込み、再度撮影して、協働学習アプリで送信する。生徒は改善点を書き込む部分で学習者用デジタル教科書を使用した。自分のペースで必要に応じて何度も音声を聞くことができ、自信をもって音読できるようになった。



物語の朗読を行う生徒の様子

英語 中学校第2学年 Lesson4 Uluru

発音確認と音読練習での活用

拡大縮小

朗読音声再生

タブレット端末を用い、毎時間学習者用のデジタル教科書で単元の新出単語を聞き、発音練習を繰り返し行う。

個人で行うことで、聞き取りづらい発音の箇所を重点的に聞いて練習したり、一度全部聞いてからもう一度繰り返して聞いて発音したりと、個別最適に学習を進めることができる。

ダイアログも同様に活用することで、自分のペースで学習を進めることができる。

ペアやグループで指摘し合いながら学びを進めたり、単語の発音の確認をし合うことができたり、学習支援の必要な生徒も取り組みやすい。

単語やダイアログの文字は、拡大したり、全体を見るために縮小したりすることができ、特別支援の視点からも有用なツールである。



グループで確認しながら学習している様子

英語 中学校第2学年 Lesson4 Uluru

発音確認と音読練習での活用

朗読音声再生

単元のまとめとして"A Pot of Poison"の物語の劇を行った。

クラスを6グループに分け、各グループ1シーンずつを担当し、最後は発表会という形で順番に1シーンずつ発表を行い、ストーリーがつながるようにした。

デジタル教科書を活用することで、自分の役のセリフをネイティブに近い発音で言ったり、抑揚をつけたりという練習を行った。

また、ジェスチャーを考えてつけたり、小道具を使用したりと、グループで協力しながら楽しめるような活動にした。



音声教材を利用して劇の台詞を練習する様子

英語 中学校第3学年 Let's read1 A Mother's Lullaby

音読練習での活用

朗読音声再生

外部ソフト連携

指定した単元のリーディング練習を夏休みの課題にした。

2学期にリーディングテストを行うことを伝えた。めあては、「物語の内容を相手によりよく伝える」とし、そのために「感情を声の大きさなどで工夫したり、抑揚をつけたりして練習しよう」と伝えた。取組状況を夏休み中に確認したかったので、タブレットにある録音機能を使い、自分のリーディングを録音させ、そのデータを授業支援



リーディング練習を行っている様子

ソフトで提出させた。一度提出した生徒も、練習を重ね、上達したことを自覚でき、夏休みの後半に再提出し直している生徒も多くいた。デジタル教科書は、カラオケ機能があったり、スピードを調節したりできるので、個人の課題に合わせることができ、生徒も意欲的に活動することができた。

英語 中学校第3学年 Unit3 Animals on the Red List

内容確認での活用

動画再生

ドリル問題

【本文読解】

動画で文法を復習し、本文の内容を動画で見る。まずは大意が捉えられているかを確認し、次に単語をフラッシュカードで見せて、確認する。

そして、本文を表示し、一文ずつ内容を確認する。

【リスニング問題】

動画で内容を聞き、その後理解できているか、「答え」の欄で確認する。



タブレットを大型テレビに映している様子

英語 中学校第3学年 Unit4 Be Prepared and Work Together

個別学習での活用

朗読音声再生

単語の発音や意味を覚えるために、学習者用デジタル教科書を利用し、自分のペースで学習することができた。

英語を見て日本語を言ったり、逆に日本語を見て英語を言ったり、発音を聞いたり、デジタル教科書のフラッシュカードは、さまざまな使い方ができるので、今の自分の課題に合わせた学習方法を選択して学習することができる。



単語の自主学習の様子

英語 中学校第3学年 Unit4 Be Prepared and Work Together

音読練習での活用

朗読音声再生

英語の授業では、本文を聞き、発音練習を行っている。

スラッシュやアクセントの位置を表示することができたり、再生速度を変えたりして聞くことができるので、自分に合ったペースで音読することができる。

また、リピートしたりシャドーイングしたりと、様々な音読練習を展開することができる。さらに、対話文では、役割を決めて音読することができ、個人だけでなく、ペアやグループでも取り組んでいる。

音読練習をした後、クラス全体で音読の成果を披露する場を設け、より自然で正しい英語の発音を獲得できるようになってきた。英語の発話の自信にもつながっている。



役割を決めて音読する様子

英語 中学校第3学年 Unit5 A Legacy for Peace

発音確認での活用

朗読音声再生

音読活動の一環として、単語のアクセントと文のイントネーションを意識させる取組を行った。

生徒には、各自でデジタル教科書の音声を読みながら、英文にイントネーションの波を記入させた。

英文を指定して何度も聞くことができるので、各自のペースで学習を進めていた。うまく聞き取りができない生徒は、友だちに教えてもらいながらイントネーションの波を記入していた。

教師が大型モニターで答えを提示し、自分が描いた波と照らし合わせた後、モニターからの音声を「波を意識しながら」リピートさせた。

単調になりがちな音読練習を生徒主体で行うことができた。



文音声読み上げ機能を活用した音読活動

英語 中学校第3学年 Unit5 A Legacy for Peace

内容確認での活用

書き込み

朗読音声再生

外部出力

生徒は、本時で扱う本文の重要表現や文法事項にデジタル教科書のペン機能を用いて書き込むなどして、内容理解を深めている。

掲載している写真の内容は、正誤問題に取り組む際の根拠となる部分に線を引く活動を行ったときのものである。

また、単語の意味調べや発音確認を授業中適宜行っている。既存の紙の教科書とは異なり、書いた文字を見えなくする機能もあるため、振り返りの場合にも有効である。また、休み時間や家庭学習で音声認識や音読などの反復練習ができるため個別最適化しており、有用であると考え。教師も電子黒板に直接書くことなく、本文導入時、手元でタブレットを用いて線を引いたり、発音を聞いたりすることに使用しており、テレビに映し出した画面を生徒と共有している。



問題に線を引いて取り組む様子

英語 中学校第3学年 Unit5 A Legacy for Peace

個別学習での取組

書き込み

朗読音声再生

2学期に扱う Unit5 では、300語以上のまとまった英文が初めて扱われる。比較的長い英文に苦手意識を持つ生徒もいるため、それぞれが主体的に題材への理解を深められるよう、WEB 媒体教科書を次のように活用した。

1点目は新出語句の学習での活用である。英文の長さに比例して増えた新出語句について日本語訳をメモした後、リピートポーズや再生速度変更等の機能を用いて、発音できるようになるまで自分のペースで練習できる。2点目は内容理解に関する QA やまとめでの活用である。前者では質問に対する解答となる部分に、後者では段落ごとまたは全体の要点となる部分に書き込みを行う。周囲との交流で考えが変わることも多いため、紙媒体への書き込みよりも活動に取り組みやすいと考えられる。



リピートポーズ機能を用いて単語の発音練習をする様子

英語 中学校第3学年 Lesson4 The World's Manga and Anime

音読練習での活用

朗読音声再生

英語の授業では、毎時間音読を行うが、読み上げの機能を利用することで、各自で音声聞いた上で、生徒が自分の能力に合わせて繰り返し聞き、読む練習ができる。

各自で練習した後に、全体で音読することにより、全員が参加できる授業をめざす。

イヤホンを使用することで、周りの生徒の学習を妨げずに行うことができる。

授業中に読み上げの機能に慣れることで、家庭学習においても、音声を聞きながら、読む練習ができ、技能の定着につなげることができる。



自分で再生して音声を聞く生徒

英語 中学校第3学年 Lesson4 The World's Manga and Anime

読み取りでの活用

拡大縮小

文字色背景色変更

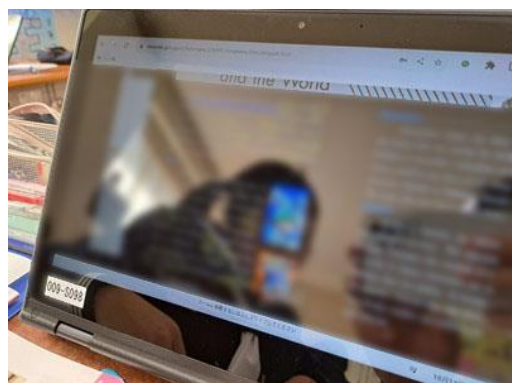
書き込み

朗読音声再生

速く正確に長文を読み取る力は年々強く求められてきている。しかし長文読解を苦手とする生徒は多い。

そこで学習者用デジタル教科書の長文ページを使用し、動詞と it や that などの指示語に色分けして線を引かせてから読み取る活動をした。画面上で何度も書いたり消したりできるので、失敗を恐れずに取り組むことができる。

また注目したい部分の拡大や、背景を白黒反転させて見やすく工夫する様子も見られた。辞書ページを開きながら、紙の教科書と並べて読解に取り組む生徒もいた。読みながら途中で発音が気になった単語があれば、タップをすればすぐに発音が聞ける点も非常に効果的であった。イヤホンがあれば、周りの生徒の学習を妨げずに行うことができる。



白黒反転で、文字を見やすくする生徒

英語 中学校第3学年 Lesson4 The World's Manga and Anime

個別学習での活用

朗読音声再生

全学年の読む教材は、発音のわからない単語や文を何度も聞いて練習している。本単元では、日本の漫画やアニメについて、まとまった英文を読み内容を理解する授業で、授業者やCDの読みを聞くという形式では、個々のレベルに対応することが難しい。

学年が上がるにつれ、知らない単語や読めない書けない単語も増えるためである。しかし、デジタル教科書によって自分のペースで音声を聞いてリピートすることができ、わからない単語だけでなく、発音が聞き取れなかった場合は何度も繰り返し聞いて理解することができる。イヤホンを使用しなくても、周りの音が邪魔になることはない。また、リピートやシャドーイングをする生徒もまわりが発話している方が、声も出しやすく間違いも恐れずできるようである。



何度も繰り返して発音練習する様子

英語 中学校第3学年 Lesson5 I Have a Dream

ディクテーションでの活用

書き込み

朗読音声再生

ディクテーション用の穴埋めプリントを使用し、生徒はデジタル教科書の本文をペンで見えないように消した状態でディクテーションに取り組む。スペルがわからないものはカタカナでもOKとする。その後、正しく聞こえていたかをスクリプトを見ながら確認し、音読練習を行う。それぞれのタブレットを使用し、自分のペースで音読練習を進めることができる。最後に、もう一度ディクテーションを行い、1度目の結果と比較する。

音読練習を通して1回目のディクテーションで聞こえなかったところが2回目には聞こえるようになっていることを生徒に実感させ、単元が終わったら、音読テストと題して、各自が教科書本文を読んでいるところを動画撮影し、提出させた。この活動はどの単元でもできる活動である。



ディクテーションに取り組む様子

英語 中学校第3学年 Lesson5 I Have a Dream

発音確認での活用

朗読音声再生

家庭学習として、教科書の英文の音声を聞かせ、発音（音読）を練習させている。

授業でも、再度デジタル教科書の英文を聞かせ、音読させている。その際には、各自イヤホンで英文を確認させている。英文を聞きながら、疑問に思ったことについてメモをとるという練習もさせている。デジタル教科書は家庭学習で正しい発音を聞きながら、音読させるのに有効である。家庭学習である程度練習や予習ができており、授業では疑問点を質問したり、また意見を言い合ったり、お互いに読み合うことに時間を使うことができる。

教師の発音、ALTの発音、デジタル教科書の発音、自分の発音、他の生徒の発音を聞き比べて、修正や評価（感想等を共有する）をしている。



個人個人イヤホンで音読の練習をしている様子

英語 中学校第3学年 Lesson5 I Have a Dream

音読練習での活用

朗読音声再生

関係代名詞目的格を学習し、その構文が会話の中に使われている題材を聞き取る活動にデジタル教科書を使用した。

落とし物の問い合わせについて、落とした物とその特徴を聞きながらメモを取る。

ネイティブのスピードで音声流れるため、全ての生徒が全ての内容を聞き取りきれないわけではないので、活動後にスクリプトを画面に表示し、音声を聞くことで内容の理解を促している。

また、発音の練習として、1文ごとにリピートをする活動や、聞こえてきた音声をそのまま発音するシャドーイングの練習を行い、単語・表現の定着を図っている。



注目してほしい単語にチェックを行う様子

英語 中学校第3学年 Lesson7 For Our Future

発音確認での活用

朗読音声再生

デジタル教科書を用いて、ペアでサーキットトレーニングを実施した。

デジタル教科書を活用し、単語の発音、単語と単語の音の接続部分を確認することができる。また、デジタル教科書をくり返し聞くことで、正しい発音で話せる様子が見られたり、リスニングセクションでは音声を止め、正しく聞き取ろうとする様子も見られたりする。聞き取れなければ教師に質問する主体的な行動も見られた。



正しい発音を確認する様子

サーキットトレーニングが早く終わったペアはデジタル教科書のイラストを見て、その状況に応じた質問に挑戦している。教科書以外の表現を考えた生徒は、ALT に自分の考えた表現でネイティブに通じるのか尋ねる姿も見られた。授業では、ノートに書く練習も重要なので紙とデジタルの教科書を併用している。

英語 中学校第3学年 Unit1 Hello, friends. (小学校5年生) ※下学年本使用

個別学習での活用

朗読音声再生

デジタル教科書を使用することで、個に応じて学習を進められるため、学習内容の定着を図りやすい。

また、ネイティブな発音を聞くことで、英語をより正しく理解することもできる。

さらに、デジタル教科書を使用することで、発音など簡単に繰り返し確認できるため、生徒が「わかった!」と実感する場面が増えるとともに、教科書に合ったわかりやすいイラストがあるため、より一層、学習に興味をもち、意欲的に取り組む姿も期待できる。



ネイティブな発音を繰り返し確認する生徒